

プロジェクトSTARの結果報告

財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 田中 雅道

◎大学進学率について

小クラスに割り当てられた生徒は、大学に進学する確率が高くなった。特に25歳以前での大学進学率は高くなっている。アメリカの場合、必ずしも18歳で大学に進学するということなく、仕事について一定の経験をを経て大学に進学する者もある。

今回の調査では27歳時点の大学進

学率は差が縮小している。これはパートタイムで職業に就きながら通学する学生が増えるからと推測されているが、詳細は分からない。大学進学率は学費の支払い状況で調査しているため、日本で言う全日制の大学に進学しているのか、通信制などの仕事をしながら通学しているのかの調査がされていないため詳細は不明である。

◎進学した大学の質について

小クラスに割り当てられた生徒が進学する大学の質は、普通規模のクラスの生徒よりも上位の大学に進学した。しかし、全米平均で見ると必ずしも高い大学ではない。小クラスの効果で本来は大学に進学していなかった生徒が、進学した結果ではなにかと推測されている。

◎所得について

クラス規模でテストの得点は4・8ポイントの差が出ているが、27歳時点で検出可能な規模の所得増加は示されていない。テスト得点差がそのまま収入に出てきてはいなかった。

しかし、クラス規模は大学進学率に影響を与えており、アメリカでは大学卒業者の所得が年をとるにしたがって増えている現状から考察する場合、経年変化によって所得の差が開いてくるのが推測されている。これからの追跡調査によって明らかにされてくるものと思われる。

◎その他の結果

貯蓄、家の所有、結婚率、移転率、居住地の近隣住民の質、等の項目において小クラスに割り当てられた生徒は標準偏差値において4・6ポイントの差が出ている。特に貯蓄の項目において顕著な効果が出ており、収入の良い仕事についている値と近似値である。

『テスト得点』の増加が大きい集団ほど、『大人の結果』への影響は大きい。小クラスに割り当てられた黒人生徒は、テスト得点で6・9ポイント、大学進学率で5・3ポイント、所得で250ドル高い結果が出ている。

小クラスの効果は男性の方が女性よりも効果が高いという結果も出ている。

◎観察可能な教師の影響

経験年数の長い幼稚園教諭に割り当てられた生徒ほど、テスト得点は高く出ている。幼稚園卒園児の27歳時点の所得とその子どもが在籍していたクラスの担任の幼稚園教諭の経験年数をグラフにした場合、明らかに相関関係が見られる。

調査では幼稚園教諭の経験年数は最長で20年であった。調査された教師の平均経験年数は9・3年であった。

20から24歳ではあまり所得の差は見られなかったが、25歳から所得が開き始め、27歳では平均1104ドルの差が出てきている。経験年数が10年以上の教師に割り当てられた生徒は、幼稚園段階のテストで3・2ポイント高く、25〜27歳の所得で平均1093ドル高い所得を得ている。

★(財)全日私幼研究機構

今後の会合等の予定

・平成25年1月24・25日

全国研究研修担当者会議

(京都・京都ガーデンパレス)